

スリランカ

Democratic Socialist Republic of Sri Lanka

	2014年	2015年	2016年
①人口:2,120万人(2016年)			
②面積:6万5,610km ²			
③1人当たりGDP:3,835米ドル (2016年)			
④実質GDP成長率(%)	5.0	4.8	4.4
⑤消費者物価上昇率(%)	3.3	0.9	4.0
⑥失業率(%)	4.3	4.7	4.4
⑦貿易収支(100万米ドル)	△8,287	△8,388	△9,090
⑧経常収支(100万米ドル)	△1,988	△1,883	△1,942
⑨外貨準備高(グロス) (100万米ドル)	8,208	7,303	6,019
⑩対外債務残高(グロス) (100万米ドル)	42,914	44,839	46,586
⑪為替レート(1米ドルにつき、 スリランカルピー、期中平均)	130.56	135.94	145.60

〔注〕2016年は暫定値、⑤:2017年より統計基準年が2013年に変更(変更前:2006/07=100)、⑦:通関ベース

〔出所〕スリランカ中央銀行「Annual Report 2016」

2016年のスリランカ経済は天候不順の影響が大きく、実質経済成長率は4.4%と、前年の4.8%から低下した。輸出は、農産品と工業製品が減少した影響で前年比2.2%減となった。一方、輸入は設備投資を中心とする資本財などの増加により前年比2.5%増となった。対内直接投資はインフラ関連の投資の伸び悩みが影響し全体で17.4%減となったが、電話・通信ネットワークやIT・BPO関係の投資は拡大した。

■建設業が成長を下支え

2016年のスリランカの実質経済成長率は4.4%と、前年の4.8%から減速した。停滞の主な理由は、天候不順による農業部門へのマイナスの影響などがあげられる。一方で、建設分野や一部のサービス分野への投資増加が成長を下支えした。

部門別にみると、GDPの62.5%(2016年)を占めるサービス業は前年比4.2%増の成長を果たした。特に金融サービス(前年比12.4%増)、保険(8.5%増)、通信(8.3%増)の成長が顕著であった。

GDPの29.7%(2016年)を占める鉱工業は、前年比6.7%増と高成長を果たした。うち建設部門は14.9%増、鉱業部門は14.4%増となり、両部門を合わせるとGDPの11.1%を占めた。一方で、製造部門は1.7%増に留まった。

2015年には前年比4.8%増の成長を果たした農林水産業の成長率は4.2%減となり、これに伴いGDPに占める割合も7.9%に縮小した。これは主に悪天候により米、茶、ゴムなどを中心に生産への打撃を受けたことによる。失業率も前年の4.7%から4.4%に引き下がった。

表1 スリランカの産業別実質GDP成長率

	2015年		2016年	
	成長率	構成比	成長率	構成比
農林水産業	4.8	8.6	△4.2	7.9
鉱工業	2.1	29.0	6.7	29.7
サービス業	5.7	62.5	4.2	62.5

〔注〕2016年は暫定値。

〔出所〕スリランカ中央銀行「Annual Report 2016」

支出の観点からみると、2016年の経済成長は主に投資支出によって導かれた。投資総量を表す国内総資本形成の値は、前年比19.6%増の成長を記録し、GDPの31.5%に上った。投資支出のうち最も大きかったのは建設関連の投資だ。投資支出がこのように拡大した一方で、支出項目として最大の指標である消費支出は4.1%増に留まり、前年の10.3%増から大幅に鈍化した。

■輸出減・輸入増により、貿易赤字が拡大

2016年は農産品や工業品の輸出が減少したことにより、輸出額が前年比2.2%減少し、103億1,000万ドルとなった。輸出減の主な要因は、国際市場における商品価格の下落や、米国やEUなど主要輸出相手国の経済回復の遅れなどにより輸出が伸び悩んでいること、そして悪天候による輸出用農産品の生産減などであった。しかし、米国によるイランへの経済制裁の解除で同国向けの茶輸出が伸び、またEUへの水産品輸出解禁などのプラス要因もあり、輸出額は年末にかけてわずかに回復した。

輸出を品目別にみると、繊維製品・衣料品は前年比64億ドル増(同1.3%増)、革製品・旅行用品・履物が30億ドル増(22.0%増)となったものの、輸送機械が112億ドル減(46.0%減)となったのをはじめ、石油製品が87億ドル減(23.3%減)、茶が72億ドル減(5.3%減)、香辛料が60億ドル減(16.0%減)と、多くの主要品目での不振が影響し、全体では縮小した。輸出相手国の上位10か国の顔ぶれは変化がなく、1位の米国が輸出総額の27.3%を占めた。

表2 スリランカの主要品目別輸出入<通関ベース>

(単位:100 万米ドル、%)

	輸出 (FOB)					輸入 (CIF)			
	2015 年		2016 年			2015 年		2016 年	
	金額	金額	構成比	伸び率		金額	金額	構成比	伸び率
農産品	2,482	2,326	22.6	△6.3	消費財	4,714	4,319	22.3	△8.4
茶	1,341	1,269	12.3	△5.3	食料品・飲料品	1,628	1,627	8.4	0.0
ゴム	26	33	0.3	25.3	米	135	13	0.1	△90.5
ココナツ	352	366	3.5	4.1	砂糖・菓子類	254	345	1.8	35.5
香辛料	377	317	3.1	△16.0	乳製品	251	249	1.3	△0.6
野菜	31	27	0.3	△13.1	レンズ豆	148	139	0.7	△5.8
未加工たばこ	32	31	0.3	△1.9	その他	839	881	4.5	5.0
その他農産品	160	114	1.1	△28.9	その他消費財	3,086	2,692	13.9	△12.8
海産品	163	170	1.6	4.0	自動車	1,360	795	4.1	△41.5
工業製品	8,017	7,940	77.0	△1.0	医薬品	460	526	2.7	14.4
繊維製品・衣料品	4,820	4,884	47.4	1.3	家庭用品	221	271	1.4	22.5
ゴム製品	761	768	7.4	0.9	衣類・アクセサリー	390	366	1.9	△6.2
石油製品	374	287	2.8	△23.3	その他	655	734	3.8	12.1
宝石・ダイヤモンド・宝飾品類	332	274	2.7	△17.4	中間財	9,638	9,870	50.9	2.4
食品・飲料・たばこ	307	324	3.1	5.5	燃料	2,700	2,481	12.8	△8.1
機械・機器	294	318	3.1	8.1	繊維製品	2,296	2,705	13.9	17.8
印刷・出版製品	46	42	0.4	△7.2	ダイヤモンド・貴金属	162	514	2.7	218.5
輸送機器	244	132	1.3	△46.0	化学製品	870	856	4.4	△1.6
革製品・旅行用品・履物	136	166	1.6	22.0	小麦・トウモロコシ	357	249	1.3	△30.2
陶磁器	35	34	0.3	△2.3	肥料	290	137	0.7	△52.7
その他工業製品	669	712	6.9	6.4	その他中間財	2,964	2,927	15.1	△1.2
鉱業品	28	29	0.3	2.1	資本財	4,567	5,198	26.8	13.8
その他	20	15	0.1	△25.6	建設資材	1,352	1,569	8.1	16.0
					輸送機器	931	880	4.5	△5.4
					機械・機器	2,278	2,741	14.1	20.3
					その他資本財	6	9	0.0	44.1
					その他	16	13	0.1	△17.6
合計(その他含む)	10,547	10,310	100.0	△2.2	合計(その他含む)	18,935	19,400	100.0	2.5

[注] 2016 年は暫定値。

[出所] スリランカ中央銀行「Annual Report 2016」

表3 スリランカの主要国・地域別輸出入<通関ベース>

(単位:100 万米ドル、%)

	輸出 (FOB)					輸入 (CIF)			
	2015 年		2016 年			2015 年		2016 年	
	金額	金額	構成比	伸び率		金額	金額	構成比	伸び率
米国	2,810	2,810	27.3	0.0	中国	3,712	4,215	21.7	13.6
英国	1,029	1,044	10.1	1.5	インド	4,268	3,815	19.7	△10.6
インド	643	554	5.4	△13.8	シンガポール	1,063	1,175	6.1	10.5
ドイツ	476	500	4.9	5.0	アラブ首長国連邦(UAE)	1,067	1,119	5.8	4.9
イタリア	434	430	4.2	△0.9	日本	1,389	950	4.9	△31.6
ベルギー	283	338	3.3	19.4	マレーシア	508	638	3.3	25.6
アラブ首長国連邦(UAE)	276	234	2.3	△15.2	米国	471	539	2.8	14.4
中国	308	211	2.0	△31.5	タイ	497	515	2.7	3.6
オランダ	220	208	2.0	△5.5	台湾	460	496	2.6	7.8
日本	216	202	2.0	△6.5	香港	365	466	2.4	27.7
EU28	3,024	3,101	30.1	2.5	EU28	1,684	1,818	9.4	8.0
SAARC	891	827	8.0	△7.2	SAARC	4,626	4,239	21.8	△8.4
合計(その他含む)	10,547	10,310	100.0	△2.2	合計(その他含む)	18,935	19,400	100.0	2.5

[注] ①2016 年は暫定値。

②SAARC(南アジア地域協力連合)は、インド、パキスタン、バングラデシュ、スリランカ、ネパール、モルディブ、アフガニスタン、ブータン。

[出所] スリランカ中央銀行「Annual Report 2016」

輸出の減少に対して輸入は前年比 2.5%増加し、194 億ドルとなった。輸入増の大きな要因は、設備投資関連品の資本財および中間財輸入の増加である。資本財の輸入額は前年比 13.8%増加し、うち機械・機器が 20.3%増、建設資材は 16.0%増となった。繊維製品や希少鉱物・金属を含む中間財は 2.4%増加した。うち燃料輸入については、石炭は増加したが石油などが減少したため、燃料全体としては縮小した。また、自動車の輸入が 41.5%減少したことで消費財輸入も全体で 8.4%減少した。輸入相手国としては、前年 1 位のインドを抜いて中国が最

大の輸入国となった。

■GSP プラスが復活、EU への輸出に追い風

スリランカは内戦中の人権問題を理由に 2010 年以降 GSP プラスの認証を剥奪されていたが、現政権による人権問題への取り組みなどが評価され、2017 年 5 月に再認定された。GSP プラス(Generalized System of Preferences plus)とは、EU への輸出においてほぼ全ての商品が現地での輸入関税が免除される枠組みである。スリランカから EU への主要輸出品目である繊維製品・衣料品は、GSP

プラスの復活によりさらに輸出が加速する見込みだ。これに加えて、2016年6月にはEUへの水産物輸出が解禁された。これらのプラス要因により、EUへの輸出は拡大基調にある。

現在、米国に対してもGSP(Generalized System of Preferences:一般特惠関税制度)の枠組みで旅行関連商品の免税申請を行っている最中で、2017年中には承認される予定だ。GSPの枠組みを活用した輸出は2016年は前年比9.0%増加し、今後もこれら税制優遇制度を活用した輸出は増加していくことが見込まれる。

■FTAの枠組み拡大を目指す

新規FTAについては、中国とシンガポールとの間でそれぞれ2017年中の締結を目指している。中国スリランカFTA(CSFTA)は商品、サービス、投資、経済・技術連携の分野を網羅する予定で、2014年から交渉が継続している。スリランカ・シンガポールFTA(SLSFTA)についても、2016年にFS調査と交渉が開始された。

2016年4月には、米国とのTIFA(Trade and Investment Framework Agreement)での枠組み協議において、共同行動計画が採択された。同計画に基づき両国は今後5年間で、スリランカの貿易・投資制度の改革と両国間の貿易・投資活性化に向け取り組み、隣にインド、東に東南アジア、西に中東およびアフリカを臨むスリランカの地の利を生かし、地域のサービス・ハブにすることを目指していく。

これら新規の取り組みに加え、インドやパキスタンとの既存FTAも強化していく方針だ。インド・スリランカFTA(ISFTA)では、サービス部門をFTA対象に追加し、投資機会を拡充させることを目指し、2017年中に同FTAを強化することで合意を目指す。パキスタン・スリランカFTA(PSFTA)についても、さらなる自由化品目の拡大などに向けて抜本的見直しを目指す交渉が継続している。2016年にはいくつかの貿易障壁が撤廃されたが、対象品目が限られていることや税関問題などにより、同FTAを活用した輸出はまだまだ低調だ。

■対内直接投資は縮小

2016年のスリランカへの対内直接投資額(スリランカ投資庁(BOI, Board of Investment)認可案件ベース)は前年比17.4%減の8億100万ドルと大きく縮小した。インフラ関連の投資が25.1%減、サービス業が17.0%減、製造業が3.6%減と、全体的な縮小傾向が目立った。特に減少幅が大きかったのが、インフラ部門における港湾コンテナターミナル投資(前年比96.9%減)、発電・燃料などへの投資(同71.2%減)、住宅物件開発などへの投資(同62.5%減)や、製造業部門における繊維・衣料・皮革製品

表4 スリランカの主要国・地域別対内直接投資(FDI)
〈国際収支ベース、ネット、フロー〉

(単位:100万ドル、%)

	2015年		2016年	
	金額	金額	構成比	伸び率
オランダ	90	133	16.6	47.9
香港	188	120	15.0	△36.2
インド	68	112	14.0	65.3
マレーシア	65	88	11.0	35.8
中国	151	53	6.6	△65.0
カナダ	27	40	5.0	49.1
オーストラリア	19	35	4.4	89.2
シンガポール	30	34	4.2	10.6
日本	8	30	3.8	259.9
ベルギー	7	30	3.7	300.2
英国	29	28	3.5	△3.5
米国	17	19	2.4	14.0
UAE	18	13	1.6	△26.8
サウジアラビア	-	12	1.6	-
タイ	-	10	1.2	-
合計(その他含む)	970	801	100.0	△17.4

[注] BOI法に基づく認可案件。
[出所] スリランカ投資庁(BOI)

表5 スリランカの業種別対内直接投資(FDI)
〈国際収支ベース、ネット、フロー〉

(単位:100万ドル、%)

	2015年		2016年	
	金額	金額	構成比	伸び率
製造業	257	248	30.9	△3.6
繊維・衣料・皮革製品	45	21	2.7	△53.1
食品・飲料・たばこ	43	50	6.2	15.9
化学・石油・石炭・ゴム・プラスチック製品	75	100	12.4	32.0
非金属鉱物製品	14	31	3.9	127.7
金属加工・機械・輸送機械	46	12	1.5	△74.2
その他製造業	34	34	4.3	2.1
農業	4	2	0.2	△51.3
サービス業	255	212	26.5	△17.0
ホテル・レストラン	182	141	17.6	△22.3
IT、ビジネス・プロセス・アウトソーシング(BPO)	14	23	2.9	69.1
その他サービス	60	48	5.9	△20.5
インフラ関連	453	340	42.4	△25.1
住宅物件開発・店舗・オフィス	212	80	9.9	△62.5
電話・通信ネットワーク	139	244	30.4	75.5
港湾コンテナターミナル	51	2	0.2	△96.9
発電・燃料・ガス・石油・その他	51	15	1.8	△71.2
合計(その他含む)	970	801	100.0	△17.4

[注] BOI法に基づく認可案件。
[出所] スリランカ中央銀行「Annual Report 2016」

投資(同53.1%減)だ。2014年から2015年に掛けて増加した金属加工・機械・輸送機械やホテル・レストランなどもそれぞれ74.2%減、22.3%減となった。

一方、投資が増加したものは、インフラ部門の電話・通信ネットワーク(前年比75.5%増)、サービス分野のIT・BPO(ビジネス・プロセス・アウトソーシング)(同69.1%増)、製造業の非金属鉱物製品(127.7%増)などだ。港湾やホテル建設など、ハード面での直接投資が減少し、ITをはじめとするシステムインフラやサービス分野などに投資がシフトしていることが分かる。特に通信関係の投資が加速しており、国・地域別の投資額で1位から4位のオランダ、香港、インド、マレーシアについては、それぞれ電話・通信ネットワーク関係の企業が2016年に大規模な投資を

表 6 スリランカの対日主要品目別輸出入<通関ベース>

(単位:100 万ドル、%)

	輸出 (FOB)					輸入 (CIF)			
	2015 年		2016 年			2015 年		2016 年	
	金額	金額	構成比	伸び率		金額	金額	構成比	伸び率
コーヒー、茶、マテ及び香辛料	43	44	22.2	2.3	輸送機械	1,083	537	57.9	△50.4
衣類(布帛製品)	27	28	13.8	2.5	一般機械	119	126	13.5	5.7
魚介類	20	19	9.3	△5.4	電気機器	21	46	4.9	122.3
衣類(ニット製品)	13	17	8.5	34.9	ゴム及びその製品	18	32	3.4	74.2
ゴム及びその製品	18	15	7.6	△13.9	精密機器	32	31	3.4	△1.8
麻、ジュート、ココヤシ等の植物性繊維	13	14	7.2	14.9	プラスチック及びその製品	17	22	2.4	30.4
電気機器	10	9	4.6	△9.9	塩、硫黄、土石類、プラスター等	3	15	1.6	459.1
塩、硫黄、土石類、プラスター等	7	7	3.3	△2.1	動物性または植物性の油脂等	0	8	0.8	13,065.7
雑製品	5	5	2.7	6.2	各種の化学工業生産品	8	8	0.8	△7.5
陶磁製品	6	5	2.6	△19.2	鉱物性燃料等	4	8	0.8	73.3
合計(その他含む)	214	200	100.0	△6.7	合計(その他含む)	1,392	928	100.0	△33.3

[出所] グローバル・トレード・アトラス

行った。これらに加え、オランダからはゴム関連企業や、香港からは高級ホテル、インドからは旅行関連や食品関連などの企業が投資した。

2015 年に対スリランカ直接投資額が前年比 62.6%減少した中国は、2016 年の投資額がさらに縮小し同 65.0%減の 5,300 万ドルと、国・地域別投資額で 5 位にとどまった。2016 年の中国企業による主な投資は、中国が開発予定の「コロンボ・ポートシティ開発計画」に関連する不動産投資であった。

■ 外資のさらなる呼び込み目指すも、具体策は未定

スリランカ政府は継続的な経済発展のために外国資本による直接投資を呼び込むことの重要性は認識しているものの、前政権から続く課題である財政赤字の解消に優先的に取り組んでおり、税制優遇などの具体的な施策は打ち出せずにいる。2017 年 1 月に発表された国家経済開発計画において、通商政策の整備として、アジアや EU への輸出拡大を狙う外国企業の進出を期待するとともに、国内の制度改革によりビジネス環境の改善と人材育成に取り組んでいくとした。ビジネス環境の改善として、経済のデジタル化、観光産業振興、中小企業向け融資などを通じ、世界銀行が毎年発表する投資環境ランキング「Doing Business」で 2020 年までにトップ 70 入りすることを目標に掲げる。また人材育成については、女性登用と教育制度改革を柱に、2020 年までに 100 万人の新規雇用創出を目標に掲げる。

■ 日本との貿易は輸出入共に減少、直接投資は増加

2016 年、スリランカから日本への輸出は 2 億ドルと前年比 6.7%減少し、日本からの輸入は 9 億 2,800 万ドルと同 33.3%減少した。輸出の減少については、第一次産品のスリランカ全体の輸出が減少した影響が大きい。輸入の

減少の主な要因は、自動車の前年比ほぼ半減した影響で、これは 2015 年 11 月に自動車輸入に関するスリランカ国内の税金が大幅に引き上げられたことによる。ただし、完成車の輸入は縮小したものの、自動車部品や機械部品は引き続き日本から多く輸入している。

輸出入が低調だった一方、日本からの直接投資は前年比 259.9%増と大幅に拡大した。日本からの主な直接投資は、電子部品の製造に使用されるシリカ(鉱石)製品に関連するものであった。この背景には、スリランカ政府がシリカの輸出に際し国内での一次加工を義務化したことがあげられる。このように、スリランカでの貿易や投資に関しては、現地政府の突然の制度変更などに影響されることが多々ある。

既スリランカ進出日本企業の多くが悩まされるのが、行政の不確実性と対応の遅さだ。税制や細かな法制度が突然変更となり、時には過去に遡及して適用されるなど、政策の不確実性が散見される。付加価値税(VAT)など還付されるべき税金の還付が遅れるなど、システム化を含めた行政の制度整備が強く求められる。2017 年 4 月にはスリランカのウィクラマシンハ首相が訪日し、安倍首相と会談した。この際、両首脳は共同声明でスリランカ国内の投資環境をさらに改善していく決意を表明し、貿易と投資の一層の促進を重視していくことで一致した。両国間の経済活動のさらなる拡大に向けて、具体的な対応が急務となろう。